

(6) 水辺に恵まれた環境や路地のコミュニティ空間

中央区の大部分は、江戸以降の埋め立てによって順次造られ、面積の約2割を水面が占める水辺に恵まれた環境にあります。隅田川や運河によりうるおいのある景観が形成されるとともに、国の重要文化財である日本橋、勝鬨橋、清洲橋、永代橋などの橋が、景観に特徴を与えています。水辺には公園や緑地の整備が進んでおり、憩いの場になっています。



勝鬨橋 昭和15年(1940)に建設された日本でも珍しい跳ね橋。当初は1日5回跳開していたが、昭和45年(1970)を最後に跳開していない。



清洲橋 昭和3年(1928)にドイツケルン市の吊り橋をモデルに造られた橋であり、隅田川の架橋の中でも一番美しいと言われている。



永代橋 現在のアーチ橋は、大正15年(1926)に架設されたもので、アーチ形状の美しさが目立っている。

また、佃や月島地区は、豊富な水辺環境とともに、昔ながらの長屋や路地裏が残り、独特の生活感あふれる雰囲気やノスタルジーを感じさせ、そこには、昔ながらのコミュニティ空間が残っています。



路地裏 今も下町の面影をとどめる生活感の漂う路地裏は、貴重なコミュニティ空間となっている。

(7) 歴史や伝統と先進性の調和

中央区では、長年に渡る歴史や伝統が継承されるだけでなく、常にその時代の変化や新しさが取り入れられてきました。まちを眺めてみると、歴史的な街並みと新しく建てられた建築物が調和している



佃地区 時代を感じさせる街並みや釣り船と、後方の超高層マンション群とが美しいコントラストを見せている。



看板建築 正面に銅板を貼りつけて装飾している看板建築は、まちの歴史を感じさせ、新鮮なインパクトを持ちまちに風格を与えている。

都市景観が目に入ります。佃地区では、大川端リバーシティの高層マンション群と昔ながらの長屋や路地裏が独特な景観を形成しています。そのほかにも、立ち並ぶビルの間を覗くと、銅板

貼りの建築物など時代を感じさせる建物が数多く残り、懐かしい雰囲気をかもし出しています。

銀座通りでは、多くの老舗等が残っている中、海外からのブランドショップなどの出店が進んでいますが、銀座ルールにより建物の高さが決められ統一感のある景観が確保されています。



銀座ルール 銀座ならではの良好な景観を守るためにつくられた建築ルール。建物の高さは、区域により最大でも56m以下と取り決めがなされている。

また、景観だけでなく、祭りや商い、生活の中においても、昔ながらの作法、教え等が残されています。これらは、時代の流れの中で変化をとげながらも、大切なものとして受け継がれています。



きものde銀座 着物を着て銀座を楽しむ有志の集まり。毎月第2土曜午後3時に銀座4丁目和光前で待ち合わせを行い、銀座を闊歩している。